



## 「今年の夏も暑い?今から始める暑さ対策!」



桜の季節が終わり、新緑が美しい季節です。過ごしやすい季節と思うのも束の間、ちらほら「夏」を感じる気候となってきました。「暑さ対策」というタイトルを見て、「早い!」と思った方もいるかもしれませんが、今年は昨年以上の暑さが心配されます。暑熱ストレスは、人にも牛にも大きなダメージとなります…。今から対策を始め、夏本番に先手を打ちましょう!

NEWS

## 昨年の「異常」な猛暑が「当たり前」になる!



- 昨年は、7月下旬から9月上旬にかけて、日平均最高気温**30℃**超え。
- 今年は、4月の時点で昨年をさらに上回る気温! 昨年以上に猛暑になる心配も… (図1)

今年は、さらに暑くなるの!? でも、和牛は暑さに強いから大丈夫だね?

乳牛よりは暑さに強いですが…、和牛の適温は15~25℃、上限臨界温度は30℃です。

25℃以上になると暑熱ストレスを感じ、30℃を超えると体温が上昇してしまいます。

暑熱ストレスを感じると…

- 体温の上昇による代謝量の増加 ⇒ **維持エネルギーの増加**
- **乾物摂取量の低下** ・ **水分摂取量の増加** (図2) など、生理的な変化が生じるほか
- **繁殖成績の低下、発情兆候の微弱化、発情周期の延長、受胎率の低下**などが生じます。

授精費用や、空胎期間の延長による飼料代の増加など  
経営面へのダメージも大きい!

和牛も、**今から暑熱対策が必須**なんです! 次ページではそのポイントを紹介します!

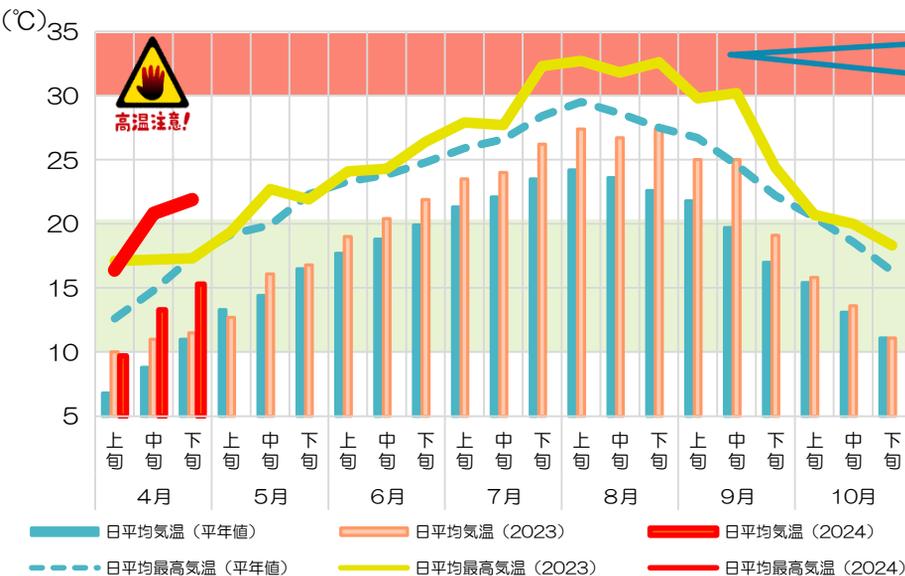


図1 奥州市胆沢若柳地点の気温の推移

昨年8月上旬の日平均最高気温は若柳で**32.7℃**  
一関ではさらに暑い**34.4℃**!

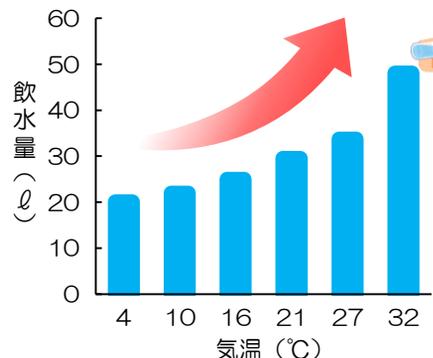


図2 育成牛 (体重約280kg時) に必要な1日当たりの飲水量 (ℓ/日)  
出典: 日本飼養標準肉用牛 (2022年版)

# まだ間に合う！今からできる簡単暑熱対策！



## Step 1 牛舎の温度を下げる～「遮熱」と「換気」がポイント～

- 遮熱：直射日光は絶対入れない▷ 寒冷紗の設置、西日に注意
- 換気：換気扇の掃除▷ ほこりを取って風力up！電気代down！  
換気設備の増設▷ 簡易的でも効果は十分◎



換気扇を1台掃除するだけでこんなにほこりが出るの!?



## よくあるご質問 暑い日中だけ換気扇を回せば良いんだよね？



夕方にかけて上昇する体温を、**夜間から朝方にかけていかに冷ますか**が重要です！  
夜間も換気扇は止めず、回し続けることをオススメします！



手作りダクト換気装置

## Step 2 乾物摂取量を低下させない～「水分」がポイント～

- 乾草よりサイレージ▷ 少しでも水分量の多い食べやすい餌を
- 常に清潔で綺麗な水▷ 乾物摂取量を増やすために水は必須！  
夏場の飲水量増加対策にもつながります
- こまめな餌寄せ▷ 飼料摂取量が増加します

ポイント

夜間給餌や粗飼料細断も効果あり！



ウォーターカップも油断禁物です！  
ペロの裏などしっかり掃除しましょう



## Step 3 繁殖成績の改善～「受精卵移植(ET)」にチャレンジしてみよう～

- 精子は熱に弱い▷ 受精卵、特に、**新鮮卵**は熱に強く、暑熱の影響を受けづらい  
Step1,2で牛の体調管理を行うとともに、ETに挑戦するののも一つの手段です！

### 《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→



#### ○ 妊娠末期の母牛の飼養管理(増飼い)について

- ・ 分娩2か月前から増飼いを開始、特にタンパク質(CP)が胎児発育に重要！
- ・ 粗飼料の栄養価や母牛の体重、気温にもよるが配合飼料2kg/日の増給が目安！
- ・ 配合飼料の増給は1kgを1週間かけてゆっくと、急激な増給は**×**！

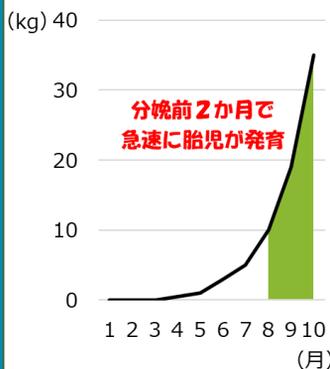


図1 胎児の体重推移

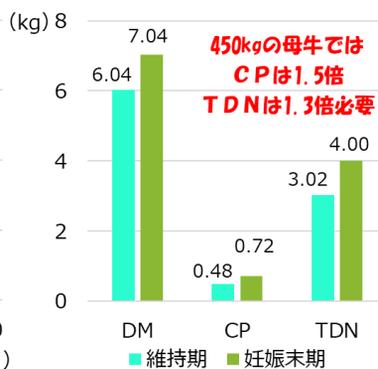


図2 維持期と妊娠末期の養分要求量比較

#### 適切な増飼いのメリット

- ☑ 子牛の免疫力の向上(胸腺の発達)
  - ☑ 子牛の骨格筋の発達(生後の発育に影響)
  - ☑ 母牛の繁殖性の向上(正常な卵胞発育)
  - ☑ 分娩遅延や難産の減少、良質初乳の生産
- ただし過剰給与は過肥による難産を誘発



お問い合わせ >>>

奥州農業改良普及センター 0197-35-8451  
一関農業改良普及センター 0191-52-4961